

資源管理型漁業推進総合対策事業

(広域回遊資源:日本海北ブロック) 調査 — 抄録 —

天然資源調査:※三戸 芳典 山田 嘉暢 早川 豊

栽培資源調査:※三戸 芳典・山田 嘉暢・早川 豊・佐藤 恒成・※※白取 尚実

1. 天然資源調査

(1) 水揚量、単価調査

① ヒラメ

小泊漁協と大戸瀬漁協の平成4年6月から12月までの月別漁法別漁獲量を調査した。

小泊漁協の月別漁獲量は、6月 900.8kg、7月 14.98kg、8月 27.2kg、9月 34.1kg、10月 239.9kg、11月 500.9kg、12月 507.6kgであった。

大戸瀬漁業の月別漁獲量は、6月 2,960.7kg、7月 839.3kg、8月 322.6kg、9月 84.9kg、10月 349.0kg、11月 2,941.9kg、12月 3,681kgであった。

② カレイ類

小泊漁協と大戸瀬漁協の平成4年4月から12月までの月別漁法別銘柄別漁獲量を調査した。

小泊漁協の月別漁獲量は、4月 555.2kg、5月 0.9kg、6月 380.6kg、7月 11.8kg、8月 0.4kg、9月 0kg、10月 0.3kg、11月 93.6kg、12月 133.4kgであった。

大戸瀬漁業の月別漁獲量は、4月 1,734.42kg、5月 1,553.2kg、6月 861.9kg、7月 963.4kg、8月 237.7kg、9月 1.7kg、10月 46.0kg、11月 1,337.1kg、12月 10,480.5kg であった。

(2) 調査船調査(活性率調査)

① 刺網

留網は1晩とし、揚網には1時間要した。再捕魚は船上の流水式水槽に収容し、1時間後の生残尾数を計数した。調査は6月6日と19日に行ない、生残率は両日とも 100%であった。

② 底曳網

水産試験場試験船を使用し、投網から揚網まで1時間、水槽収容まで10分を要し、水槽収容後1時間での生残尾数を計数した。調査は5月26日と6月1日に実施した。5月26日の結果は、マガレイの生残尾数が77.8%、マコガレイの生残率が75.0%であった。

(2) 漁獲物調査

① 小カレイの魚種の重量組成

小カレイの月別の魚種の重量組成を表に示した。

表 小カレイの魚種別重量組成

年月	マガレイ	マコガレ	その他カレイ
平成4年8月	100.0%	0.0%	0.0%
10月	52.6	0.0	47.4
11月	32.5	61.2	6.3
12月	85.2	7.9	6.9
平成5年1月	57.4	21.2	21.4

- ② ヒラメの銘柄別全長組成
小泊、鰯ヶ沢、大戸瀬漁協の銘柄別全長組成を調査した。
- (4) 魚体測定調査
平成5年1月から大戸瀬漁協から検体を購入して、水産試験場に持ち帰り精密測定を実施したが、結果は産卵が終了する4月～5月頃まで継続した上でまとめる予定である。

2. 栽培資源調査

- (1) 漁獲統計調査
- ① タイ漁獲量の経年変化について
本県日本側におけるタイ漁獲量は、1964年以前には、350t前後であった。1964年以降漁獲量は、減少傾向を示し、1981年まで100～200t範囲で推移したが、以降さらに減少を続け、1989年には30tまで減少した。しかし、1989年以降増加傾向となり、1992年には、1966年以降最も多い、約214tを漁獲した。
- ② マダイ漁業種類別漁獲量
漁獲量の盛期は、5～6月と10～1月に見られた。また年間の漁業種類別漁獲量では、定置網（底建網を含む）が最も多く96%を占め、次いで冲合底曳網が3%となり、この2漁業種類で全体の99%を占めていた。
- ③ マダイ銘柄別漁獲量
鰯ヶ沢漁協、大戸瀬漁協とともに、前年同様年間を通して、銘柄ピン（18cm以上23cm未満）から3ピン（15cm未満）の小型弱齡魚が漁獲の主体となっており、全漁獲量の84%を占めていた。
- (2) 市場調査
- ① マダイ率（タイ類漁獲物に占めるマダイの個体数割合）
4～12月については、各銘柄のうち特大（6kg以上）～半1（0.8kg以上1.5kg未満）までは100%、半2（0.4kg以上0.8kg未満）～3ピン（15cm未満）にかけては、低下する傾向を示した。月別で見ると、10～12月にかけての、2ピン（18cm以上15cm未満）のマダイ率が14.6%と低い値を示した。
- (3) 魚体測定調査
4～6月にかけては、0～2歳魚が主体で91%を占めていた。7～9月にかけては、1歳が主体で61%を占めていた。10～12月にかけては、1～2歳魚が主体で70%を占めていた。

◇ ━━━━ ◇ ━━━━ ◇ ━━━━
※現在青森県水産部水産課 ※※同漁政課